

日向市の将来を担う人材育成のため、同市は2018年度から、市内の中学生が日ごろ思い描いている将来の夢や希望に向かってチャレンジするための活動を募集し、その取り組みを支援する「日向市子どもの夢サポート事業」を行っている。必要経費に対して最大30万円を補助するもので、今年度は3年生3人が貴重な体験をしてきた。紙面で紹介する。

夢への一歩をサポ

日向市が中学生の取り組みを助成

本の編集者になって、多くの人に読んでもらいたい

富島中3年
黒木 杏珠さん(15)



—応募した動機を教えてください。
先生に勧められ、将来したい仕事を実際に見たり、話を聞いたりできるので応募しました。

—夢を教えてください。
本の編集者です。本が好きなので、本に携わりたいです。そして、少しでも多くの人に本を手にとってもらいたいと思っています。

—何をしてきましたが。

昨年12月24、25の2日間で大村製本、新潮社、集英社、角川武蔵野ミュージアムに行きました。本の編集について教わりました。

—特に印象に残っていることは何ですか。
一日で数え切れないほどの量を製本したり、本の編集は一人で何人も作家さんを担当したりしていて、本ができるまでにはたくさんの人が働き、苦労があるのだと知りました。

—対応してもらった人からの胸に響いた言葉はありますか。
どの会社でも言われた「中学生だから

—戦っているかと思いましたが、かたがた、好きなことを失敗を恐れずに挑戦する」という言葉です。これからのいろいろなことに挑

—活動後、自身で変化したことは

—ありますが。
本に携わる人たちは、本に対する思いが強く、いろいろな本を読んでいます。私もたくさん本を読んで知識を付けたいと思いました。

—当面の目標や抱負を教えてください。
文章をすぐ理解したり、良い作品を作家さんと作るために、たくさんの知識が必要です。いろいろなジャンルの本を読んでいこうと思っています。

首都圏の出版社などを見学



大村製本で作業を見学する黒木さん＝市教委提供

—改めて将来の夢を教えてください。
たくさんの人に本を手にとってもらい、本を読むことの大切さ、良さを知ってもらえたらいいなと思っています。